

イーストスプリング・ ジャパン中小型厳選バリュー株ファンド

追加型投信／国内／株式

全組入銘柄のご紹介



投資信託／国内中小型株式 部門

2年連続 最優秀ファンド賞 受賞



株式型 日本 中小型株 評価期間3年

2年連続 最優秀ファンド賞 受賞

当ファンドのリスク、手数料等の概要は、当資料内の「投資リスク」、「ファンドの費用」の欄をご覧ください。
また、それぞれの詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

250711(05)



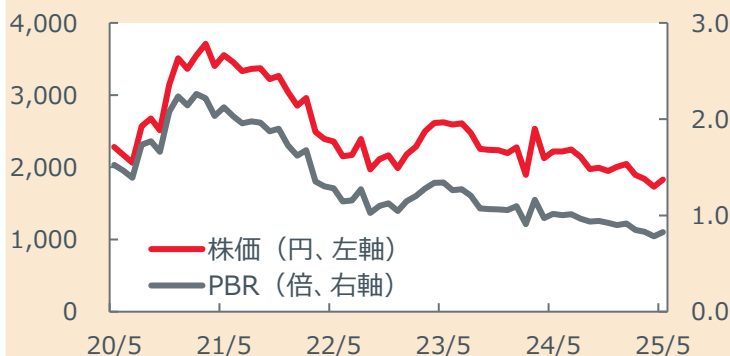
全組入銘柄のご紹介 (2025年5月末時点)

1 小糸製作所

銘柄コード：7276 | 業種：電気機器
時価総額：5,626億円 | PBR：0.8倍

組入比率
2.9%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



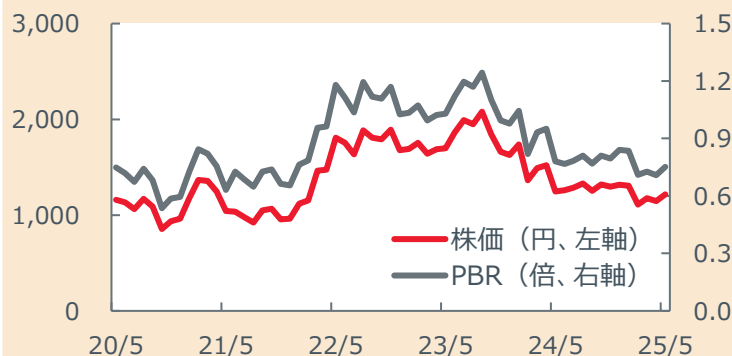
- | | |
|------------|--|
| 会社の
特長 | ✓ ヘッドランプなど自動車用照明機器の国内最大手。トヨタ向けを中心に、世界各国に製品を提供。LED（発光ダイオード）ヘッドランプやディスチャージヘッドランプ、ADB（配光可変ヘッドランプ）などの高付加価値製品の拡販にも注力。 |
| 割安な
理由 | ✓ 半導体不足などの影響で、米ゼネラル・モーターズやフォードからの新規受注案件の生産開始が遅延。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 半導体不足などの影響は一時的なものであり、長期的な成長には影響しないと見られる。 ✓ 自社株買いなど、株主還元積極的な姿勢が見られる。 |

2 日揮ホールディングス

銘柄コード：1963 | 業種：建設業
時価総額：3,158億円 | PBR：0.8倍

組入比率
2.8%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



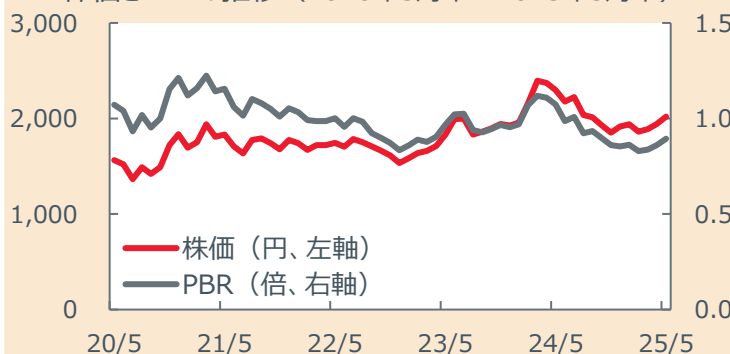
- | | |
|------------|---|
| 会社の
特長 | ✓ 国内最大手のエンジニアリング企業。エネルギー分野を中心にインフラ分野も含めたプラント・施設のEPC（設計・調達・建設）事業を展開。 |
| 割安な
理由 | ✓ コロナ禍の影響による原材料費や人件費の高騰により、コロナ以前に契約したプロジェクトの収益率が悪化。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ コロナ禍以前に契約した収益率の低いプロジェクトの納入が進む一方、進行中のプロジェクトの多くはコスト増を反映した契約内容となっており、会社全体の収益率改善がみられる。 ✓ 新規受注案件については、収益率がコロナ禍以前の水準に回復しており、さらなるコスト増も織り込んだ契約となっているため、今後の業績回復に対する期待が高まっている。 |

3 エア・ウォーター

銘柄コード：4088 | 業種：化学
時価総額：4,639億円 | PBR：0.9倍

組入比率
2.8%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



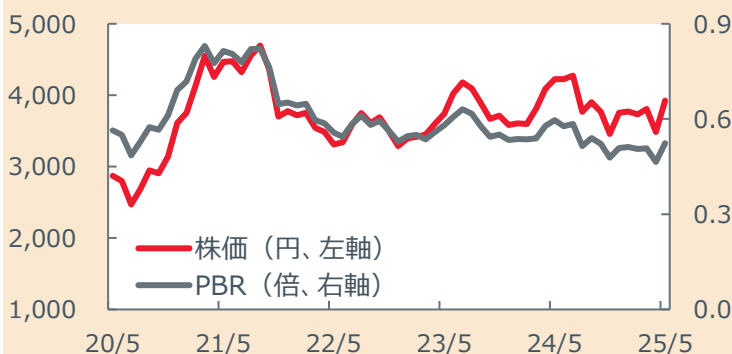
- | | |
|------------|--|
| 会社の
特長 | ✓ 産業ガスを起点に、エネルギー、医療、食品、農業、電子材料、物流など多分野に事業を展開する総合インフラ企業。 |
| 割安な
理由 | ✓ 円安によりバイオマス発電向け輸入燃料やその他原材料のコストが増加。価格転嫁が遅れたことが株価下落要因に。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ コスト増は一時的なものであり、中長期的には収益の回復が見込まれる。またバイオマス発電については合併会社の株式を譲渡するなど再編に取り組んでいる。 ✓ 産業ガス事業においては、インド市場が中長期的な収益のドライバーとなると見ている。 |

4 カネカ

銘柄コード：4118 | 業種：化学
時価総額：2,591億円 | PBR：0.5倍

組入比率
2.8%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



- | | |
|------------|---|
| 会社の
特長 | ✓ 塩化ビニル（塩ビ）樹脂で国内大手の化学メーカー。各種機能性樹脂や合成繊維、食品、医薬品、機能性食品素材、電子材料を手掛ける。 |
| 割安な
理由 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 安価な中国産製品の供給増と需要低迷により、アジアの塩ビ市況が悪化。 ✓ スマートフォン、半導体需要の低迷による電子材料が苦戦。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 低マージン事業からの撤退など事業ポートフォリオの再編に取り組んでおり、全体の収益率が改善すると見ている。 ✓ 国内の塩ビ価格改定が進んでおり、収益率の改善が見込まれる。 |



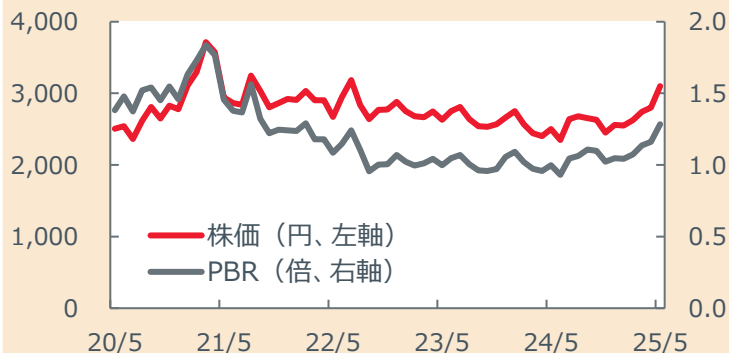
全組入銘柄のご紹介 (2025年5月末時点)

5 H.U.グループホールディングス

銘柄コード：4544 | 業種：サービス業
時価総額：1,781億円 | PBR：1.3倍

組入比率
2.8%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



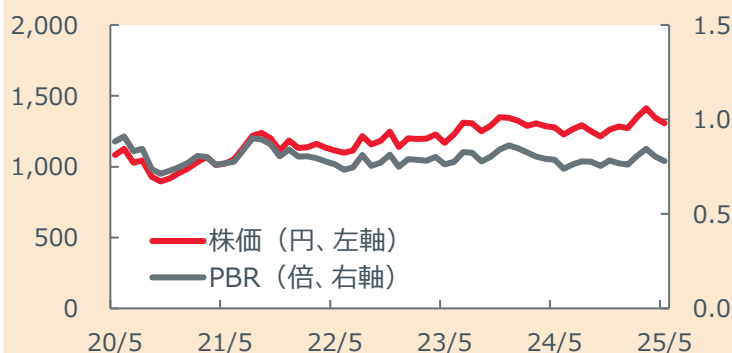
- | | |
|------------|---|
| 会社の
特長 | ✓ 臨床検査薬、受託臨床検査の大手。医療機関から尿や血液を預かり検査する受託臨床検査サービスや、臨床検査薬の研究開発・製造・販売を行う。 |
| 割安な
理由 | ✓ 新たな臨床検査センターや研究施設に関わる固定費が増加したことで、収益や収益率が低下。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新たな施設はオペレーションの自動化と安定稼働によりコスト削減が達成可能。 ✓ グループ内営業部門の統合により、グループがもつ臨床検査サービス、臨床検査薬の製造販売、医療器材の滅菌サービスなどを組み合わせた総合的なソリューションを病院・診療所に対して提供することで安定した収益の確保につなげている。 |

6 日本化薬

銘柄コード：4272 | 業種：化学
時価総額：2,088億円 | PBR：0.8倍

組入比率
2.8%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



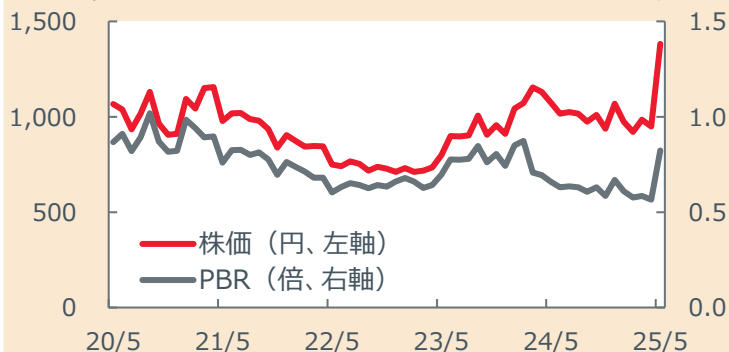
- | | |
|------------|---|
| 会社の
特長 | ✓ 抗がん剤に強みをもつ医薬・化学メーカー。火薬の製造から始まり、医薬品、自動車安全部品などを展開。 |
| 割安な
理由 | ✓ 自動車のエアバッグやシートベルト向けガス発生装置の出荷減速やシクリカルな要因による半導体素材需要の低迷、ジェネリック抗がん剤の需要低迷などによる減益。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自動車向けガス発生装置市場では新規顧客の獲得に成功し、シェア拡大が見込める。 ✓ 半導体素材需要低迷は一時的であり、回復が見込まれる。 ✓ 今後ジェネリック新薬投入が控えていることに加え、バイオシミュラー（バイオ後続品）の開発にも強みを持つ。 |

7 沖電気工業

銘柄コード：6703 | 業種：電気機器
時価総額：1,205億円 | PBR：0.8倍

組入比率
2.8%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



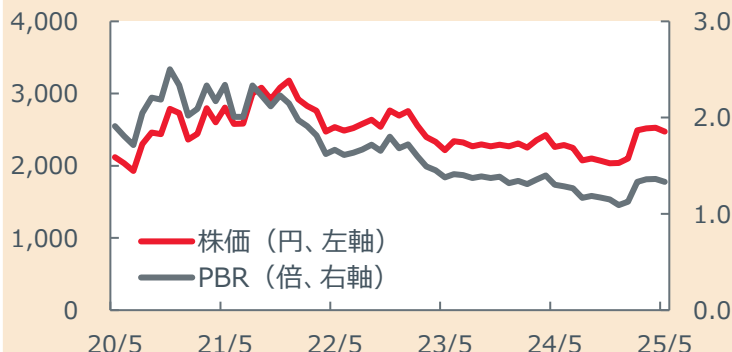
- | | |
|------------|--|
| 会社の
特長 | ✓ 社会インフラシステムや、ATM・プリンター等の製造・販売を手掛ける総合電機メーカー。ATM分野では、国内トップクラスのシェアを持つ。 |
| 割安な
理由 | ✓ 国内外のATM事業とプリンター事業は、キャッシュレス化とデジタル化の影響が懸念される。 |
| 運用者の
視点 | ✓ コスト改善、海外拠点の合理化、収益性の高い製品群に焦点を当てた戦略など、継続的な構造改革を実施。同社はネットワークインフラや通信技術ソリューションの設計・実装に強みを持ち、ニッチな分野において安定したキャッシュフローを創出している。 |

8 KHネオケム

銘柄コード：4189 | 業種：化学
時価総額：919億円 | PBR：1.3倍

組入比率
2.7%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



- | | |
|------------|---|
| 会社の
特長 | ✓ エアコンや冷蔵庫で使用する冷凍機油原料や化粧品原料、可塑剤原料など特色ある製品を提供する化学メーカー。 |
| 割安な
理由 | ✓ コロナ禍後に見られた需要低下、在庫消化期間が想定より長くなったことなどから株価が低迷。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 主力製品である環境配慮型の冷凍機油の需要は、先進国ではエアコン買い替え需要、新興国ではエアコン市場の拡大を背景に今後も拡大を続けると予想される。 ✓ 積極的な設備投資により、短期的には減価償却費の増加が収益を圧迫する可能性があるが、長期的には収益機会の拡大に繋がると見ている。 |



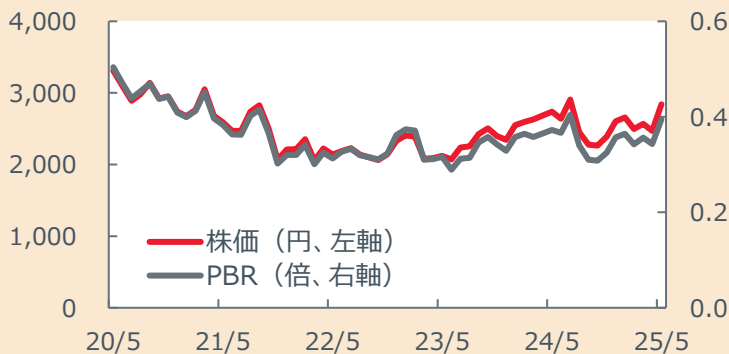
全組入銘柄のご紹介 (2025年5月末時点)

9 おきなわフィナンシャルグループ

銘柄コード：7350 | 業種：銀行業
時価総額：654億円 | PBR：0.4倍

組入比率
2.6%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



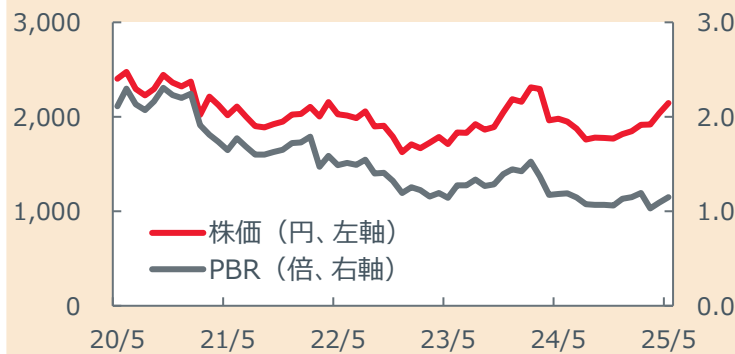
- | | |
|------------|---|
| 会社の
特長 | ✓ 沖縄銀行を中核とする金融持株会社。銀行業のほか、リース業などを展開する。 |
| 割安な
理由 | ✓ 多くの地方銀行同様、日銀によるマイナス金利政策により利ざやが縮小し、株価は何年にもわたり低迷。また、沖縄経済は観光業への依存度が高いため、日本の他の地域に比べてコロナ禍での打撃が大きかったことも株価下落要因に。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 貸出残高の増加と、日銀のマイナス金利解除を受けた利ざやの拡大は続く可能性が高いと見ている。 ✓ 固定費の削減を進めてきたことから利ざや拡大による収入増が業務利益の拡大に繋がりがやすい状況。 |

10 メタウォーター

銘柄コード：9551 | 業種：電気・ガス業
時価総額：949億円 | PBR：1.2倍

組入比率
2.6%

株価とPBRの推移 (2020年5月末～2025年5月末)



- | | |
|------------|---|
| 会社の
特長 | ✓ 上下水道やごみ処理施設の設計・建設・運転管理を手掛ける水・環境インフラの総合エンジニアリング企業。日本ガイシと富士電機の水環境事業の統合で設立。 |
| 割安な
理由 | ✓ 22年に流通株式比率の向上、持ち合い解消に向け、大株主である日本ガイシと富士電機が一部保有株売却を発表。その後、当面の上値の重しにつながるの見方で下落。 |
| 運用者の
視点 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 国内トッププレーヤーとして重要な地位を確立。また、主な顧客である地方自治体は、浄水場と下水処理場をアウトソーシングする傾向にあるため、今後も拡大が想定される。 ✓ 水道インフラの多くは90年代に建設され、更新時期を迎えていることから、現在の価格にはアップサイドの可能性がある。 |

銘柄名	銘柄コード	業種	時価総額 (億円)	PBR (倍)	会社の特長
11 スタンレー電気	6923	電気機器	4,226	0.9	✓ 自動車用照明器大手。LEDヘッドランプやリアランプなどのエコ製品に加え、紫外光の殺菌効果を活用した医療向け深紫外製品を展開。
12 SUMCO	3436	金属製品	3,441	0.6	✓ 半導体基板材料であるシリコンウェーハの製造・販売を行う専門メーカー。シリコンウェーハの世界シェアは第2位。
13 ナブテスコ	6268	機械	2,892	1.1	✓ 鉄道・航空向けモーションコントロール装置を手掛ける制御機器大手。精密減速機で世界最大手。
14 東京センチュリー	8439	その他金融業	7,544	0.7	✓ 情報通信機器のリースに強みを持つ大手リース会社。工場設備や医療機器など多様な分野へ展開。
15 山九	9065	陸運業	3,852	1.2	✓ 物流と機器据付などの機工事業を国内外で展開。プラント・エンジニアリング、ロジスティクス、オペレーション・サポートを有機的に結びつけたビジネスモデルを構築。



全組入銘柄のご紹介（2025年5月末時点）

銘柄名	銘柄コード	業種	時価総額 (億円)	PBR (倍)	会社の特長
16 飯田グループホールディングス	3291	不動産業	5,686	0.6	✓ 6社の経営統合によって誕生した戸建分譲住宅のパワービルダー。全国展開による供給力が強み。
17 スター精密	7718	機械	828	0.8	✓ CNC（コンピューターによる数値制御）自動旋盤などの工作機械事業が主力。小型プリンターなどの特機事業をグローバルに展開。
18 イズミ	8273	小売業	2,352	0.8	✓ 広島地盤の総合スーパー。複合型総合スーパー「ゆめタウン」を中心に食品スーパーや近隣型ショッピングセンターを運営。
19 コンコルディア・フィナンシャルグループ	7186	銀行業	10,611	0.8	✓ 横浜銀行と東日本銀行の経営統合による持株会社。横浜銀行が神奈川銀行を完全子会社化し傘下3銀行体制。地銀トップ水準の連結総資産。
20 エレコム	6750	電気機器	1,582	1.6	✓ パソコン・デジタル機器関連製品の国内大手。マウスなど複数の製品群で販売数トップシェア。M&AによるB to Bビジネスを強化。
21 カチタス	8919	不動産業	1,736	3.8	✓ 地方を中心に空き家を再生・販売する住宅リフォーム事業を手掛ける再生住宅のパイオニア。ニトリHDDの持分法適用関連会社。
22 イリソ電子工業	6908	電気機器	639	0.8	✓ 車載（カーナビゲーションシステム、カーオーディオなど）に強みをもつコネクタ専門メーカー。OA機器、ゲーム機、産業機器向けにも展開。
23 名古屋鉄道	9048	陸運業	3,203	0.7	✓ 名古屋起点の中京地区私鉄大手。交通、運送、不動産、レジャー・サービス、流通、航空関連サービスを展開。
24 サトー	6287	機械	683	0.9	✓ バーコードなど自動認識技術の総合メーカー。ハードウェアからサプライ品まで国内外で展開。
25 DIC	4631	化学	2,837	0.7	✓ 印刷用インキ、有機顔料（インキの原料）の世界最大手。自動車部品や電気・電子部品等に用いるPPSコンパウンドなどの高機能材料も展開。
26 大東建託	1878	不動産業	11,192	2.3	✓ 賃貸住宅請負の大手。建物の設計・施工を含む賃貸経営受託システムによるオーナー支援に強み。



全組入銘柄のご紹介 (2025年5月末時点)

銘柄名	銘柄コード	業種	時価総額 (億円)	PBR (倍)	会社の特長
27 ナカニシ	7716	精密機器	1,810	1.4	✓ 歯科治療用ハンドピースの世界的メーカー。自社開発による精密・超高速回転のモーターに強み。
28 住友重機械工業	6302	機械	3,730	0.6	✓ 総合重機械メーカー大手。減速機、建設機械、射出成形機が主力。半導体製造装置や医療機器も展開。
29 マルハニチロ	1333	水産・農林業	1,579	0.7	✓ 水産大手。漁業、養殖、水産物加工・販売を国内外で展開。世界最大規模の水産物サプライヤー。
30 タクマ	6013	機械	1,638	1.4	✓ ごみ処理・水処理・エネルギー分野に強みを持つプラントエンジニアリング企業。廃棄物処理プラントやバイオマス発電所の建設・運転管理を通じた環境保全事業を展開。
31 横浜ゴム	5101	ゴム製品	6,060	0.7	✓ 売上高国内3位のタイヤメーカー。オフハイウェイタイヤやトラック・バス用タイヤなど生産財タイヤの強化に注力。
32 帝人	3401	繊維製品	2,295	0.5	✓ ポリエステル繊維をはじめとする合成繊維大手。産業用繊維や炭素繊維、医薬品、PC樹脂など多角的な事業展開。
33 めぶきフィナンシャルグループ	7167	銀行業	7,026	0.7	✓ 常陽銀行と足利銀行を傘下に持つ地銀グループ。預金・貸出金残高、メインバンク先数で地方銀行業界ではトップクラスの規模。
34 ヤマトホールディングス	9064	陸運業	7,221	1.1	✓ 宅配便最大手。小口貨物輸送を中心に、EC（電子商取引）関連や企業間物流などの貨物輸送を行う。
35 日本毛織	3201	繊維製品	1,142	0.8	✓ 衣料繊維を中心に、商業施設開発や産業機材、生活用品や家具の卸売・販売を手掛ける。
36 アインホールディングス	9627	小売業	1,999	1.4	✓ 北海道地盤の調剤薬局大手。病院・診療所近隣に出店する門前型店舗を展開し、業界売上高首位。Francfrancの子会社化による事業多角化を図る。
37 東ソー	4042	化学	6,952	0.8	✓ 塩ビ樹脂や苛性ソーダではアジア最大級の生産規模を誇る総合化学メーカー。機能商品や水処理事業も展開。



全組入銘柄のご紹介 (2025年5月末時点)

銘柄名	銘柄コード	業種	時価総額 (億円)	PBR (倍)	会社の特長
38 大成建設	1801	建設業	14,750	1.6	✓ スーパーゼネコンの一角。青函トンネルやリニア中央新幹線など大型土木工事の実績。
39 三菱自動車工業	7211	輸送用機器	6,363	0.6	✓ SUV（スポーツ用多目的車）や軽自動車を主力とする自動車メーカー。東南アジアで高い収益力。ルノー・日産・三菱アライアンスの一員。
40 クリエイトSD ホールディングス	3148	小売業	2,115	1.5	✓ 神奈川県地盤のドラッグストアチェーン。医薬品から食品・日用品、介護サービスまで幅広く展開。
41 オリエンタル白石	1786	建設業	509	0.9	✓ プレストレストコンクリート工法による橋梁建設や補修工事に強み。高速道路会社などが主要取引先。
42 ファイバーゲート	9450	情報・通信業	162	2.5	✓ 集合住宅や商用施設にWi-Fi通信サービスを提供。不動産の売買・賃貸も展開。
43 住友化学	4005	化学	5,747	0.6	✓ 石油化学を基盤に、電子材料や農薬、医薬品まで幅広く手掛ける総合化学メーカー。
44 大日精化工業	4116	化学	567	0.4	✓ 顔料や着色剤、インキ・コーティング剤など色彩関連製品を展開する化学メーカー。
45 ミネベアミツミ	6479	電気機器	8,685	1.1	✓ ベアリングや小型モーター、電子部品を手掛ける総合精密部品メーカー。多くの世界トップシェア製品を手掛ける。海外展開が主体。
46 テイ・エス テック	7313	輸送用機器	2,001	0.6	✓ 四輪車用のシートを中心に内装品を手掛ける自動車部品メーカー。ホンダの持分法適用関連会社で二輪車用も手掛ける。
47 タダノ	6395	機械	1,276	0.7	✓ 建設用クレーンを主力とする建設機械メーカー。部品、修理、中古車も手掛ける。国内高シェアを背景に海外展開も推進。
48 マツダ	7261	輸送用機器	5,767	0.3	✓ 乗用車を主力とする完成車メーカー。トヨタとの業務資本提携により競争力を強化。



全組入銘柄のご紹介 (2025年5月末時点)

銘柄名	銘柄コード	業種	時価総額 (億円)	PBR (倍)	会社の特長
49 ニッタ	5186	ゴム製品	1,111	0.7	✓ 動力伝動用ベルトの老舗トップメーカー。ベルト・ゴム製品やホース・チューブ製品も展開。
50 ステラケミファ	4109	化学	489	1.0	✓ フッ素化合物を中心とした高純度薬品を製造・販売。半導体用薬液で世界トップレベルのシェア。
51 高松コンストラクショングループ	1762	建設業	979	0.7	✓ 賃貸マンションや一般建築・公共土木工事を手掛ける建設グループ。高松建設と青木あすなろ建設が中核。
52 インターアクション	7725	精密機器	139	1.1	✓ イメージセンサ（光を電気信号に変換する半導体）検査用の光源装置などを製造販売。
53 ソラスト	6197	サービス業	391	1.7	✓ 医療事務受託と在宅介護サービスの提供を中核とする総合福祉企業。保育所の運営も手掛ける。
54 ダイセキ	9793	サービス業	1,805	2.0	✓ 産業廃棄物処理の大手。液状系産業廃棄物のリサイクルに強み。

出所：Bloomberg L.P.のデータ、各種資料に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※組入上位10銘柄におけるグラフ横軸は（年/月）を表します。また、組入比率は、マザーファンドの純資産総額を100%として計算しています。
※業種区分は、東証33業種分類にもとづいています。
※会社の特長、割安な理由、運用者の視点は、組入銘柄の紹介を目的としてイーストスプリング・インベストメンツが作成したものであり、特定の銘柄の推奨や将来の値動きを示唆するものではありません。
※当資料では、個別企業に言及していますが、当該企業の株式/債券について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。

R & I ファンド大賞2025 について
「R & I ファンド大賞」は、R & I が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR & I が保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR & I に帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。
・「投資信託部門」は過去3年間、「投資信託10年部門」は過去10年間、「投資信託20年部門」は過去20年間を選考期間としている。選考に際してはシャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウン、償還予定日までの期間、残高の規模等を加味したうえで選出している。選考対象は国内籍公募追加型株式投信とし、確定拠出年金専用およびSMA・ラップ口座専用は除く。評価基準日は2025年3月31日。

※当該評価は2025年3月末時点で過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証したものではありません。

「LSEG リッパー・ファンド・アワード・ジャパン 2025」について
LSEG リッパー・ファンド・アワードは毎年、多くのファンドのリスク調整後リターンを比較し、評価期間中のパフォーマンスが一貫して優れているファンドと運用会社を表彰いたします。選定に際しては、「Lipper Leader Rating（リッパー・リーダー・レーティング）システム」の中の「コンシスタント・リターン（収益一貫性）」を用い、評価期間3年、5年、10年でリスク調整後のパフォーマンスを測定いたします。評価対象となる分類ごとに、コンシスタント・リターンが最も高いファンドにLSEG リッパー・ファンド・アワードが贈られます。詳しい情報は、lipperfundawards.comをご覧ください。LSEG Lipperは、本資料に含まれるデータの正確性・信頼性を確保するよう合理的な努力をしていますが、それらの正確性については保証しません。

※当該評価は2024年12月末時点で過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証したものではありません。

当ファンドのリスク、手数料等の概要は、当資料内の「投資リスク」、「ファンドの費用」の欄をご覧ください。
また、それぞれの詳細につきましては、最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの特色

1 主として、わが国の中小型株※に投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。

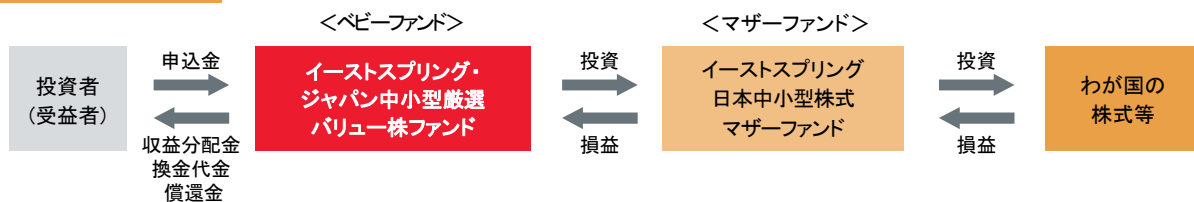
※わが国の株式市場全体の時価総額のうち、下位3分の1を構成する銘柄とします。ただし、より大きな時価総額を持つ企業や、新規公開銘柄等へ投資を行うこともあります。

- ▶ 株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ▶ 投資にあたっては、流動性を考慮することがあります。

2 独自のバリュー投資の運用哲学に基づき、株価が企業価値に対して割安に評価されている銘柄へ集中投資を行います。

- ▶ 市場全体や過去の水準と比較して割安な銘柄を抽出し、ボトムアップ・アプローチによる精緻な分析から、企業の持続可能な収益力を予測します。

ファンドの仕組み



- ◆ 当ファンドは、ファミリーファンド方式を採用し、「イーストスプリング日本中小型株式マザーファンド」への投資を通じて、主としてわが国の株式に投資します。
- ◆ 「ファミリーファンド方式」とは、投資者のみなさまはベビーファンドに投資し、ベビーファンドはその資金を主としてマザーファンドに投資して、その実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

3 イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）リミテッドが運用を行います。

- ▶ イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）リミテッドに、運用の指図に関する権限を委託します。
- ▶ 経験豊富な少数精鋭の日本株式運用チームが、当ファンドの運用を担当します。

4 年1回決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います。

- ▶ 原則として、毎年7月27日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。
- ▶ 分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について

175年以上の歴史を有する
英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、アジア・アフリカ地域を中心に業務を展開しています。
- 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、2025年1月末現在、アジアでは16の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。

＜充実したアジアのネットワーク＞



投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドは、値動きのある有価証券を実質的な主要投資対象とするため、当ファンドの基準価額は投資する有価証券等の値動きによる影響を受け、変動します。したがって、当ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。当ファンドの運用による損益は、すべて投資者のみなさまに帰属します。

<基準価額の変動要因となる主なリスク>



株価変動リスク

株式の価格は、内外の政治経済情勢、株式を発行する企業の業績および信用状況等の変化の影響を受け変動します。当ファンドは主に株式に実質的に投資を行いますので、基準価額は株価変動の影響を受けます。

当ファンドは中小型株に実質的に投資を行います。中小型株は株式市場全体の動きと比較して株価が大きく変動することがあり、基準価額に大きな影響を与える場合があります。また、中小型株の値動きが株式市場全体の値動きと異なる場合、基準価額の値動きは株式市場全体の値動きと異なる場合があります。



信用リスク

有価証券の発行者の経営・財務状況やそれらに対する外部評価の悪化により、組入れた有価証券の価格が大きく下落し、基準価額の下落要因となる場合があります。



流動性リスク

組入れた有価証券の市場規模が小さく取引量が少ない場合や市場が急変した場合、当該有価証券を希望する時期や価格で売却できないことがあり、基準価額の下落要因となる場合があります。

(注)基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスクや取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。マザーファンドは、複数のベビーファンドの資金を運用する場合があるため、他のベビーファンドからのマザーファンドへの資金流入の動向が、基準価額の変動要因となることがあります。
- 金融商品取引所における取引の停止その他やむを得ない事情（流動性の極端な減少等）があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けたお申込みの受付を取消することがあります。
- 分配金は計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。））を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。分配金はファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後は純資産が減少し、基準価額が下落する要因となります。投資者のファンドの購入価額によっては、支払われた分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上りが小さかった場合も同様です。

※詳細につきましては、最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

お申込メモ

購 入 単 位	販売会社がそれぞれ別に定める単位とします。
購 入 価 額	お申込受付日の基準価額とします。
購 入 代 金	お申込みの販売会社の定める日までにお支払いください。
換 金 単 位	販売会社がそれぞれ別に定める単位とします。
換 金 価 額	換金の受付日の基準価額とします。
換 金 代 金	換金の受付日から起算して原則として5営業日目からお支払いします。
購入・換金申込受付不可日	ありません。
申 込 締 切 時 間	原則として午後3時30分までに、購入・換金の申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。 なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細はお申込みの販売会社にお問い合わせください。
換 金 制 限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けたお申込みの受け付けを取消すこと、またはその両方を行うことがあります。
信 託 期 間	無期限(2014年8月8日設定)
繰 上 償 還	以下のいずれかにあたる場合には、受託会社と合意のうえ、繰上償還を行うことがあります。 ①純資産総額が20億円を下回ることとなった場合 ②受益者のため有利であると認める場合 ③やむを得ない事情が発生した場合
決 算 日	毎年7月27日(休業日の場合は翌営業日)
収 益 分 配	原則として毎決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないことがあります。 また、受益者と販売会社との契約によっては、税金を差引いた後、無手数料で収益分配金の再投資が可能です。
信託金の限度額	700億円
公 告	日本経済新聞に掲載します。
運 用 報 告 書	委託会社は、年1回の決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
課 税 関 係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。

※詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	3.85% (税抜3.5%) を上限 として販売会社がそれぞれ別に定める率を、お申込受付日の基準価額に乗じて得た額とします。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して 年率1.683% (税抜1.53%) 計算期間を通じて毎日費用として計上され、日々の基準価額に反映されます。信託財産からは毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(当該終了日が休業日の場合は翌営業日)および毎計算期末または信託終了時に支払われます。 <運用管理費用(信託報酬)の配分>	
	委託会社	年率0.880% (税抜0.80%)
	販売会社	年率0.770% (税抜0.70%)
	受託会社	年率0.033% (税抜0.03%)
その他の費用・手数料	信託事務の処理等に要する諸費用(監査費用、目論見書および運用報告書等の印刷費用、公告費用等)は、純資産総額に対して年率0.10%を上限とする額が毎日計上され、日々の基準価額に反映されます。信託財産からは毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(当該終了日が休業日の場合は翌営業日)および毎計算期末または信託終了時に支払われます。また、組入価証券の売買時の売買委託手数料、信託財産に関する租税等についても信託財産から支払われます。 「その他の費用・手数料」は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を表示することができません。	

※委託会社の報酬には、マザーファンドの運用の委託先への報酬が含まれます。

※投資者のみなさまが負担する費用の合計額は、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社およびファンドの関係法人 委託会社およびその他の関係法人の概要は以下の通りです。

委託会社	イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 当ファンドの委託会社として信託財産の運用業務等を行います。
受託会社	株式会社りそな銀行 当ファンドの受託会社として信託財産の保管・管理業務等を行います。
販売会社	販売会社に関しては、次ページをご覧ください。 販売会社は、当ファンドの受益権の募集の取扱いおよび販売、換金に関する事務、収益分配金・換金代金・償還金の支払いに関する事務等を行います。

※詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

販売会社一覧 投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お申込先

金融商品取引業者等	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
SMBC日興証券株式会社	○		関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	○		関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
とうほう証券株式会社	○		東北財務局長（金商）第36号	○			
松井証券株式会社	○		関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	○		関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	○		関東財務局長（金商）第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	○		関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）		○	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）		○	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）（インターネット専用）		○	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
PayPay銀行株式会社		○	関東財務局長（登金）第624号	○		○	

※上記は当資料作成時点での予定を含む情報を記載しています。また、金融商品仲介業者を含むことがあります。

照会先：
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
TEL.03-5224-3400
（受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで）
ホームページアドレス <https://www.eastspring.co.jp/>

ご留意事項

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、当ファンドの参考となる情報の提供およびその内容やリスク等を説明するために作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。○当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○投資信託は、預貯金および保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護および補償の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の補償対象ではありません。○ご購入の際は、あらかじめ販売会社がお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を必ずご確認のうえ、投資のご判断はご自身でなさいますようお願いいたします。